

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆多様な他者と協働する 集団活動の意義や必要性 を理解し、行動する力 ◆集団や自己、人間関係の 課題を見出し、その解決に 向けて話し合いや合意形 成、意思決定ができる力 ◆人間としての生き方に ついての考えを深め、自己 実現を図ろうとする態度	◆様々な変化に積極的に向き合 い他者と協働して課題を解決し ていくことが課題である。 ◆自己の在り方や生き方を考え 設計する力に課題がある。	◆多様な集団への所属感や連帯感 を高めるために、生徒の積極的な参 加による体験的活動や地域等学校 外の活動を活性化する。 ◆学級活動、学年・学校行事、生徒 会活動を計画的に行い、特に話し合 い活動の充実を図る。 ◆自己理解を深めるため、定期的な 学校生活の振り返りと体系的なキ ャリア教育を実践する。その際、生 徒の活動を記録し蓄積する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆問題の解決や探求活動 に主体的、創造的、協同的 に取り組む態度 ◆自己の生き方を考え、社 会に積極的に関わること ができる力	◆身近な人々や社会、自然に興 味・関心はもてるが、正確な知識 の上に社会をとらえ、社会に主 体的・協働的に関わろうとする 姿勢の育成に関して課題があ る。	◆環境学習について、PTAと連携 し、学年の発達段階に応じた取り組 みを実施する。 ◆キャリア教育に関しては出前授 業、職場体験を地域人材や専門家、 地域の事業所等の協力を得て行う。 ◆国際理解教育を 7 年次より計画 的に実施し、海外修学旅行を充実し たものとする。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

外国語（英語・国際）	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力	◆定期考査では、知識・技能の達成率が 62.6% に対し、思考・判断・表現では 56.3% であった。 ◆発表活動や音読など、ある程度準備された表現活動には自信をもって取り組み、意欲も高い。しかし、知識・技能を活用して即興で答える・伝える活動に課題がある。	◆知識・技能を活用できる場面設定や経験値を上げるための言語活動を工夫する。特に、少人数指導の特性を生かし、NT との個別の対話場面を増やす。 ◆単元の終わりに文法や既習表現の定着をはかるための対話テスト、表現テストを実施する。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆身の回りの物事に対して課題意識をもち、自己を見つめることができる力 ◆他者と話し合い、認め合いながら考えを深め、自己のよりよい生き方を考える力	◆物事を自分事として捉え、その解決に向けて考えを広げ、深めていくことが課題である。 ◆自分の意見と違う考え方を認め、より考えを深めることが課題である。	◆身の回りの物事を自分事として捉えるために、本時のねらいに生徒を自発的に導けるような発問や日常生活での課題を教材に生かす指導を行う。 ◆ペア学習やグループ学習で話し合い活動をする時間を設定する。意見や考えを深め、広げるために、同意や問い返しを工夫する。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

保健体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度	◆新体力テストでは、投力、握力の向上が課題である。 ◆学習評価の観点では、思考・判断をして動作(実技)に結び付ける創意工夫に課題がある。 ◆全体的に球技の能力に課題がある。	◆始業時に、ランニング、ラジオ体操、補強運動を継続的に行い、バランスのとれた体力かつ、新体力テストの課題である能力の向上を図る。 ◆男女共習、チームティーチングにより、個に応じた指導を行う。 ◆補強運動を中心に、普段使わない筋肉や体の動かし方を取り入れ、体の使い方を習得させる。

技術・家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆生活と技術についての基礎的な知識と技能 ◆知識、技能を深めた上で、主体的な学習へ取り組む力 ◆習得した力から、社会に関わろうとする力	◆課題がある生徒を中心に実技作業が遅れる傾向がある。 ◆定期考査については、基礎的な知識を問う問題はできるようになっているが、記述式の問題について課題がある。	◆課題のある生徒に対して個別対応を行い、技能習得の支援を行う。全員の作品が完成するよう支援する。 ◆知識、技能を深める課題設定と、主体的な学習ができるような環境の整備、提示する資料の工夫を行う。

令和7年度 授業改善推進プラン

音楽	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる力	◆定期考査の結果から、基本的な知識についてはおおむね定着していると思われる。知識は身に付いているものの、記述式の解答方法が分からず、得点に結びつかない生徒が多いので、記述の訓練をする必要がある。	◆表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる力を育む。 ◆人前での演奏の機会を増やす。

美術	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	◆表現方法を創意工夫し、創造的に表す力 ◆造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練る力	◆定期考査の結果から、基本的な知識についてはおおむね定着していると思われるが、発想を問う問題については、苦手意識を持っている生徒も多く課題がある。 ◆計画的に作業(制作)を進めることができない生徒が多い。	◆作品制作や鑑賞の学習を通して、表現と鑑賞の繋がりを意識できるように丁寧に説明していくことで、美術に対する興味をさらに広げる。 ◆作品制作では、導入段階で発想を広げる活動を多く取り入れることや、見通しをもって制作できるように課題のある生徒には適宜個別指導を実施する。表現技能については、繰り返し指導を行い、基本を定着させる。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
数学	◆数量や図形の基礎的な概念や原理を理解したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に着けようとする力 ◆数学を活用して事象を論理的に考察し、明確、的確に表現する力 ◆数学的活動の楽しさよさを実感して考え、生活や学習に生かそうとする態度	◆本校における全国学力・学習状況調査平均正答率 41%であった。図形の分野では、全国の正答率と比較し、14%以上低かった。 ◆図形に限らず既習の知識に未定着があり、どのように問題に取り組んで良いか判断できていないことが課題であると考えられる。知識をしっかりと整理し、体系立てて理解を構築する必要がある。	◆図形分野では、小学校で既習事項となっている図形の基本用語と基本性質の理解を深めて、中学校の図形の証明に利用と活用ができるようにする。そのために、関連する知識の確認をし、得た知識を利用して課題解決に結び付けていく授業を行っていく。 ◆関数分野では、式やグラフを用いて事象をとらえ、説明を通して課題解決に結び付けていく学習を進めていく。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
理科	◆主体的に自然事象と関わり、それらを科学的に探究しようとする態度 ◆観察・実験の結果分析・解釈し、そこから関係性（共通点や相違点など）や傾向を見い出す力 ◆学習した内容をもとに、新たな知識を再構築、獲得する力	◆本校における全国学力・学習状況調査平均正答率 43%であった。課題を解決するために課題を立てたり、実験方法を考えたりする問題が、全国の正答率と比較し、10%以上低かった。 ◆基礎的な知識をしっかりと身につけさせ、それを生かした活用問題に取り組ませる必要がある。	◆今後の改善策として、知識・技能面では、小テストの実施、単元導入時に関連する単元の復習を行ってから新しい単元の学習を始めることで定着を図る。 ◆思考力・判断力・表現力を養うために、班内で発表することや実験の条件を変えるとどうなるかななどの思考力を問う応用的な問題も扱い、力を養う。

令和 7 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	◆文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える力 ◆読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える力 ◆資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する力 ◆目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力 ◆文脈に即して漢字を正しく使う力	学力・学習状況調査において正答率が都の平均から10%程度離れている問題は以下の通りである。 ◆物語の場面や構成から生まれる効果について考えを書く問題 ◆手紙の下書きを見直し、修正したほうが良いと思う部分とその理由を答える問題 ◆スライドの工夫について助言する内容を記述する問題 ◆ちらしに「会場図」を加えた目的について選択する問題 ◆「会心の出来」の「会心」を記述する問題 以上から、左記の力が身につけていないと考えられる。	◆「読むこと」において「文章の構成や展開、表現の効果」について指導する際に、具体的な場面や表現を教師側が抜き出して提示する。 ◆「話すこと」「書くこと」に関する指導を行う際には、必ず「目的意識」と「相手意識」を明確にし、繰り返し確認する。 ◆完成した内容を推敲する場面を設定する。その際、先述した「目的意識・相手意識」を振り返り、推敲したことによってどのような修正を施したかまで記述する。 ◆漢字は小テスト、定期考査、長期休業の課題などで繰り返し定着を図る。語句や表現については、教科書で使われている言葉を中心に、国語の便覧等に掲載されている語句を小テストとして繰り返し出題し、漢字だけでなく語句の定着も図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	◆社会的事象に関する知識と理解を深め、技能の習得を図ろうとする力 ◆複数の資料を基にして多面的・多角的に考察・判断・表現する力 ◆よりよい社会の実現を視野に、諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度	◆定期考査では、知識・技能の到達が54.5%に対して、思考・判断・表現が47.2%とやや低かった。 ◆知識・技能では、語句の短期記憶はできているが、長期の定着が十分ではないことが課題である。 ◆思考・判断・表現では無回答率が高い。自分の考えを表現・記述する経験が不足していることが課題である。	◆知識の定着を図るために授業内での小テストを実施する。単元の終わりに振り返りを行う。 ◆資料の読み取りや複数資料の比較活動を取り入れ、自分の考えを表現・記述する力を育む授業を実施する。